

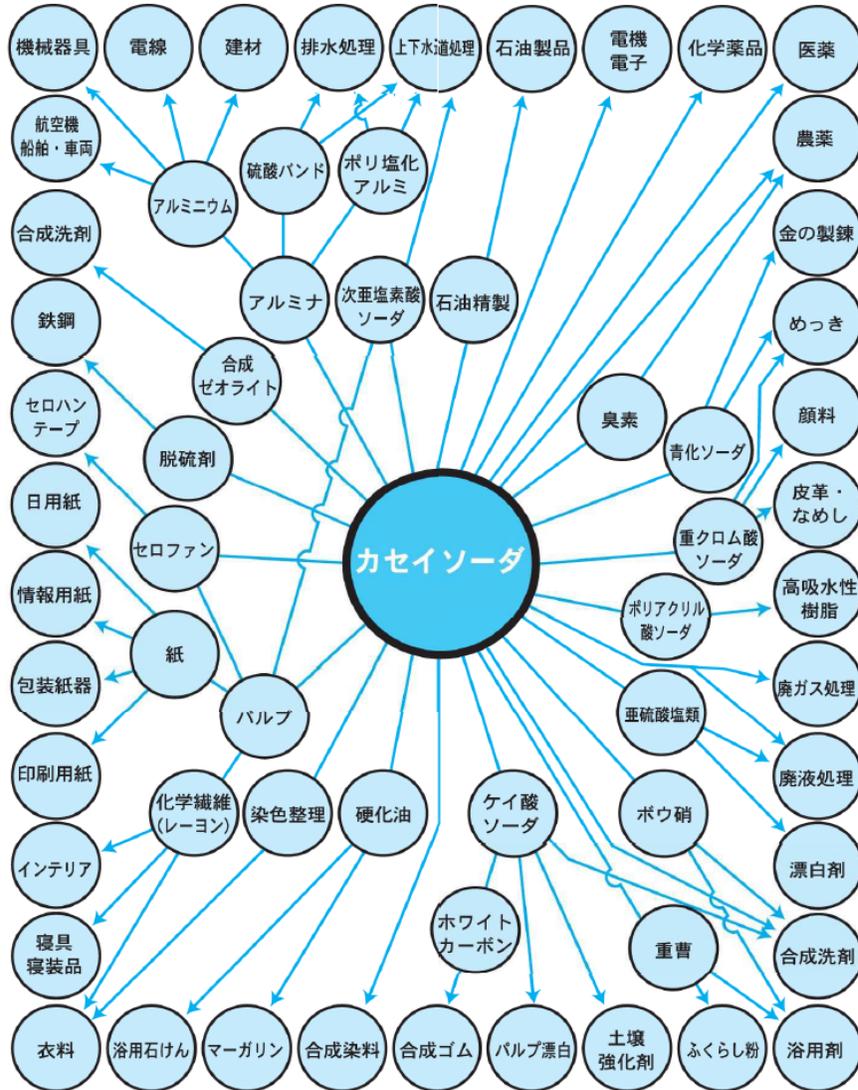
## ソーダ工業における非化石エネルギー転換への取り組み

1. ソーダ工業の概要
2. 会員会社のカーボンニュートラルへの取り組み
3. 石炭削減目標
4. 外部調達電気の非化石化目標
5. 今後の課題

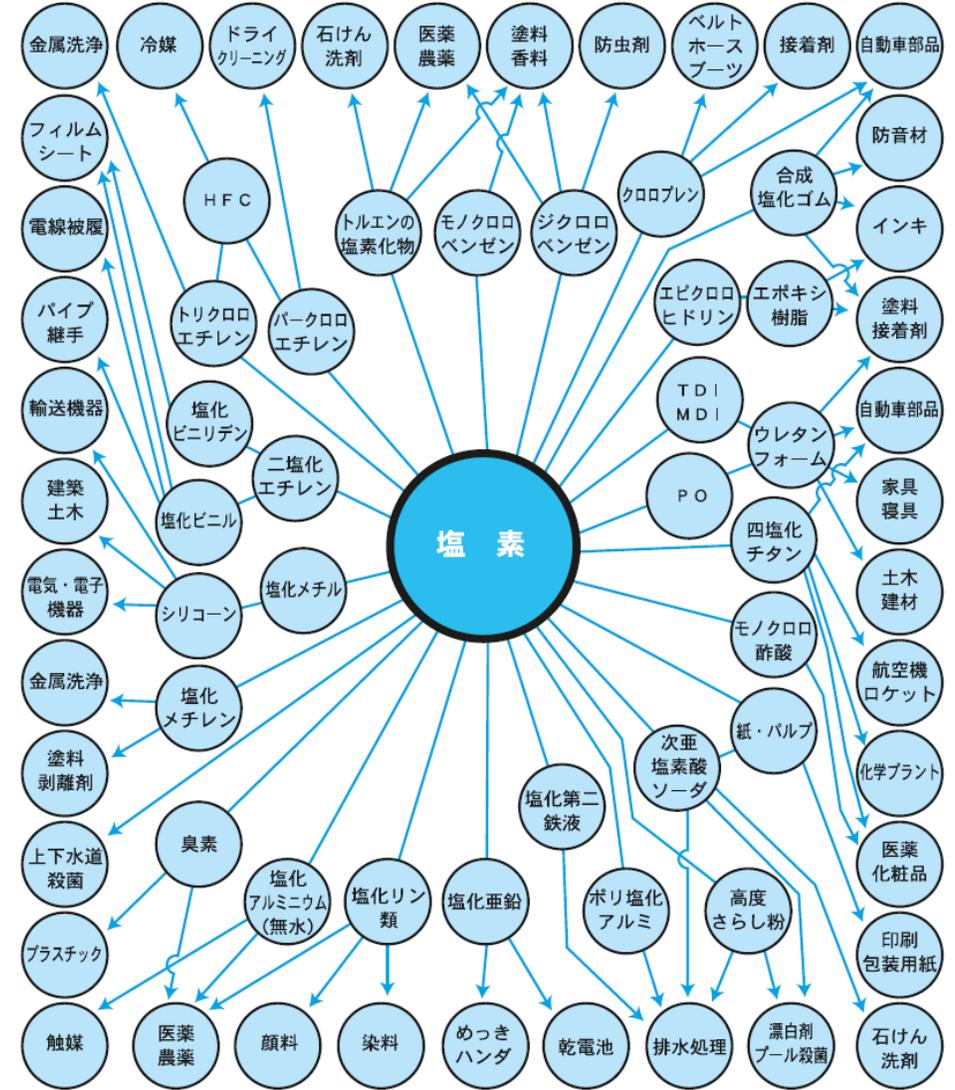
# 1. ソーダ工業の概要

- ソーダ工業は、塩を原料に、幅広い産業分野の原料・副原料、反応剤などに使われる化学薬品を製造する工業で、**重要な基礎素材産業**のひとつです。
- 塩と電力を主原料**にしており、塩がすべて海外から輸入されること、及び**電力が製造コストの約5～6割**を占める電力多消費産業です。
- ソーダ工業は、塩水の電気分解によって、カセイソーダ、塩素、水素という全く性質の異なる製品が、常に一定の比率（質量比で、 $1 : 0.886 : 0.025$ ）で製造されるため、**カセイソーダ、塩素のバランスを保ちつつ、**操業を行っています。**原料及び製品は海外の動向に大きく影響**され、常に**国際競争力**が問われています。

# 1. ソーダ工業の概要

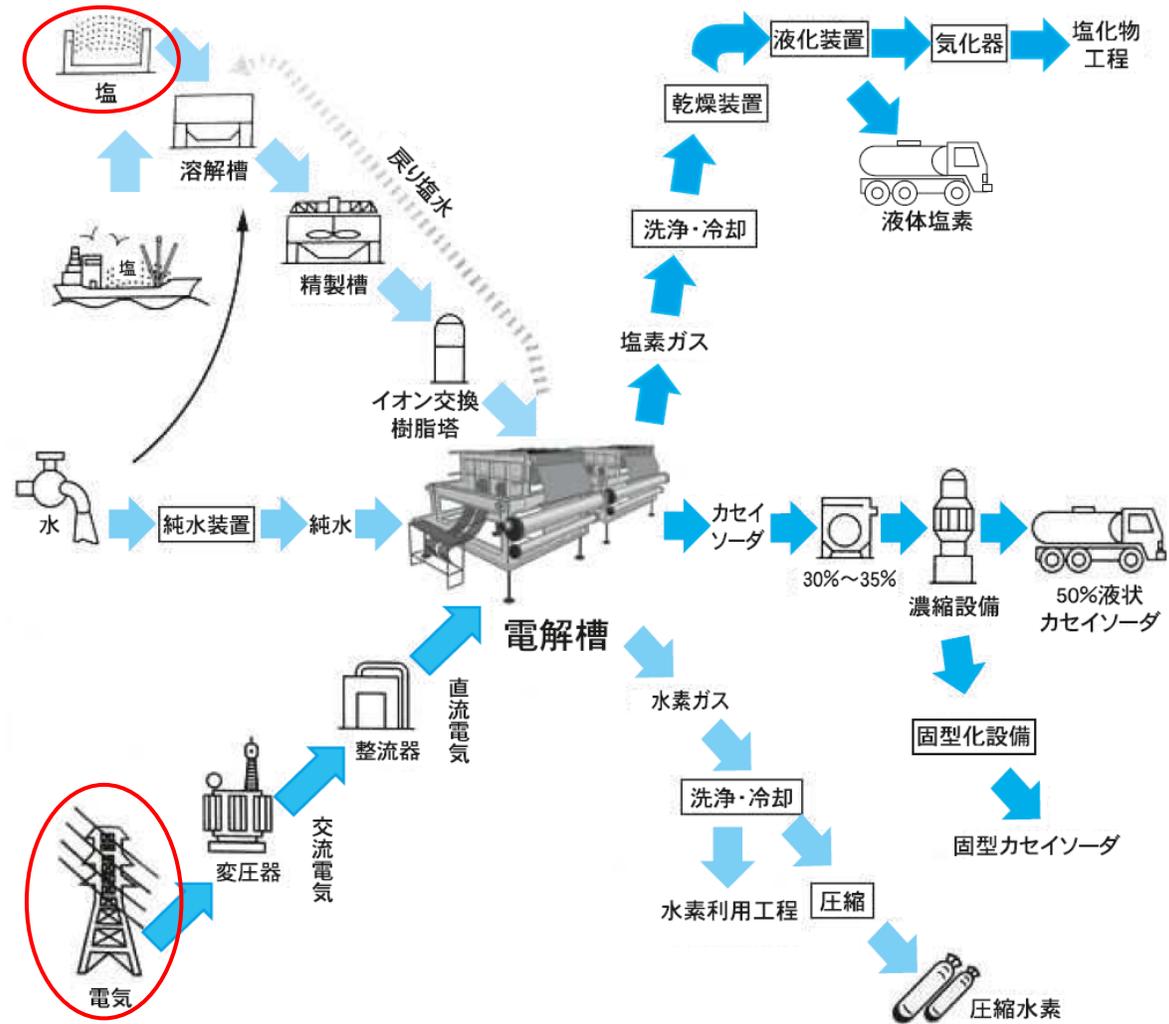


多用途



# 1. ソーダ工業の概要

製造工程



## 2. 会員会社のカーボンニュートラルへの取り組み

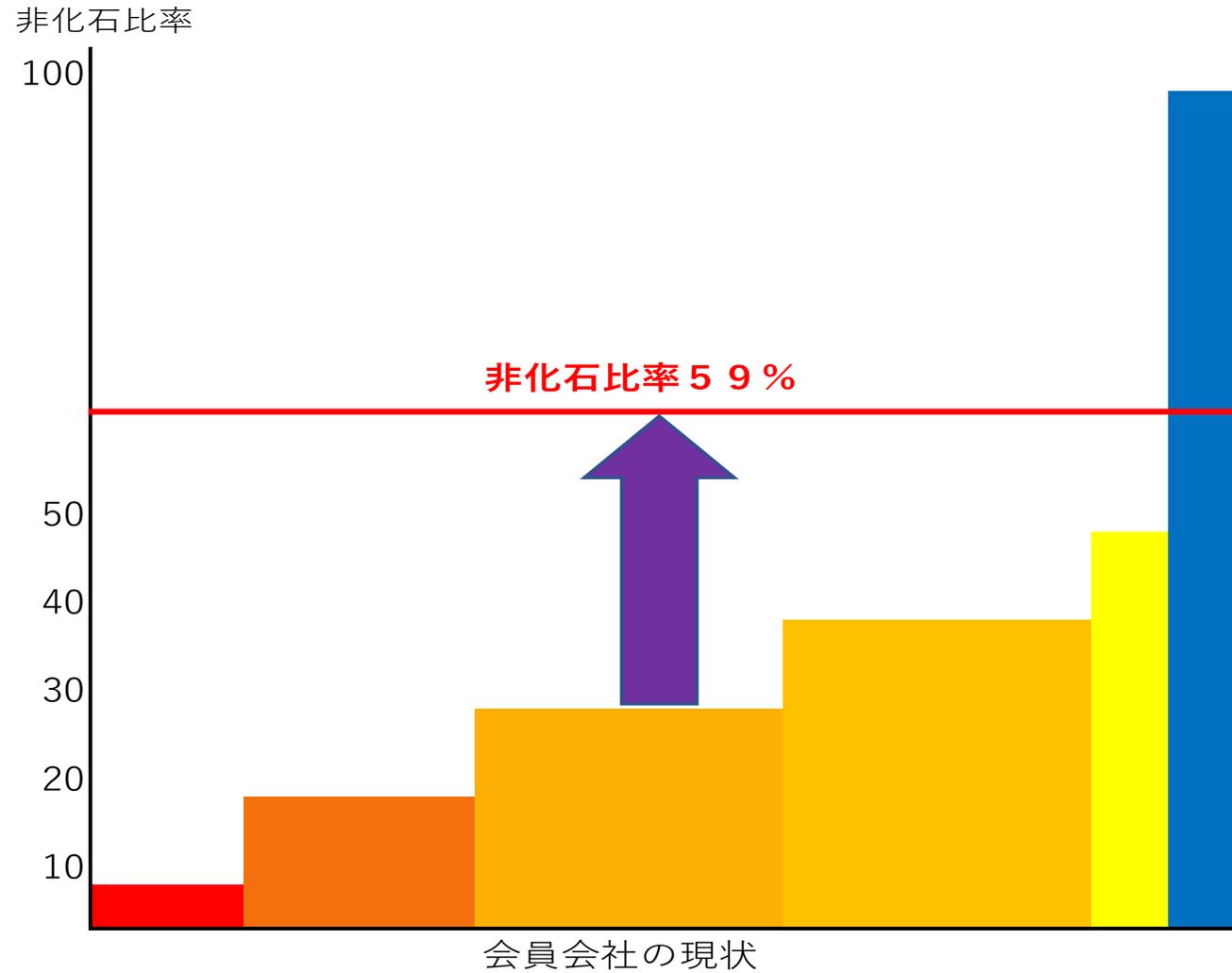
<実施中／予定の施策 **例**>

- 発電燃料種の転換（LNG、バイオマス、アンモニア、水素等へ）
- 太陽光発電の導入等、再生可能エネルギーの利用拡大
- 高効率ガスタービン発電設備の導入
- ごみ焼却場からのカーボンニュートラル蒸気の利用
- 産学官連携、コンビナート連携による取り組み

### 3. 石炭削減目標



## 4. 外部調達電気の非化石化目標



\* 第2回WG参考資料をもとに作成

## 5. 今後の課題

- ソーダ工業会はカーボンニュートラル実現のため、業種目標の目安の設定の趣旨を理解して、非化石エネルギーへの転換に積極的に取り組む所存である。
- しかしながら、今回の目標は野心的目標であり、会員会社の現状や抱える課題が個々に異なる中で、ハードルが高いことも事実である。
- 石炭自家発の燃料転換については、転換のための技術開発、代替燃料の量の確保と受け入れ設備の整備、代替燃料の価格への対応、莫大な投資金額の捻出等、課題は山積している。
- 外部調達電気の非化石化については、会員会社毎の現状が大分異なる中で、地域の電力事業者との連携、その実情を踏まえた自助努力、非化石証書等の価格の高騰への対応等、多くの課題がある。
- 中でも特に、外部調達電気のひとつと定義づけられた共同発電については、その性格や運用実態からも、自家発に準じる位置づけと考える。共同発電については、一般の電力事業者とは電源構成も異なり、また非化石化に向けた出資者間の調整や施策の検討はこれからの課題であり、ソーダ工業会を越えた協力が必須であり、極めてハードルが高い。
- 多くの課題を抱えた中での船出となるが、事務局をはじめ関係各位のご協力を得ながら、着実に進めていきたいので、ご理解、ご支援をお願いしたい。